

## 研究テーマ

# 地理学習における思考力・判断力・表現力の育成

## ～ 地図や資料を活用した言語活動の充実を通して ～

沖縄市立コザ中学校

教諭 新里 容子

### I テーマ設定理由

知識基盤社会化やグローバル化が進む社会を生きる子どもたちには、幅広い知識と柔軟な思考力で何事も自分で判断し、人とのコミュニケーションを図り、課題を解決する力が求められている。しかし、PISA調査などの諸調査で日本の子どもたちの判断力や表現力、また、学習意欲や他者と関わる力が低下しているなど、課題が存在していることが明らかになった。

平成20年に改訂された学習指導要領総則によると、「基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむこと(中略)」とされている。また、社会科地理的分野では、地図や作図などの学習を通して思考力や表現力等の育成を図るとともに、地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりする言語活動を充実させることとしている。

本校の生徒の実態に目を向けると、全国学力学習状況調査の結果から読解力や記述式の問題で課題が見られた。それは、社会科の定期試験等においても同様である。特に、地理学習において地図や資料から読み取ったことを既習学習と関連付けて説明し、自分の考えや意見を論理的に述べることを苦手とする生徒が多い。

これまでの学習指導を振り返ると、地図や資料の読み取り方を学習することに終始しがちであった。読み取った変化や特徴の意味や意義を解釈する、説明する、考えや意見を論述するなどの学習を充実させることができなかった。

そこで、指導の改善として、地図や資料を活

用した言語活動の充実を図る必要があると考える。地図や資料から情報をとりだし、その意味や意義を解釈し、読み取ったことを要約する。自分の知識や経験と関連づけて、考えや意見を論述できる力をつける。内容を検討しながら、自分の考えに批判するような読みも充実させる。互いの考えや意見を交換できる場を設定し、他の考えや意見を聞くことで共通点や相違点を見つけ、自分の考えを深めることができるようにするなどの工夫を行う。

本研究では、地図や資料から情報を取り出し、解釈し、自分の知識や経験と結びつけて自分なりの考えを深め、それをまとめて表現するなどの言語活動を充実させたい。地図や資料を活用した言語活動を充実させることができれば、地理学習における思考力・判断力・表現力を育成することができると考え、本テーマを設定した。

### II 目指す生徒像

- 1 地図や資料を読み取り、解釈、説明、論述することができる生徒。
- 2 互いの考えや意見を交換し、自分の考えを深めることができる生徒。

### III 研究目標

地理学習における思考力・判断力・表現力を育成するために、言語活動の充実を図ることが重要であることを、地図や資料を活用する学習を通して実践的に検証する。

### IV 研究仮説

地図や資料を活用する学習において、読み取る、解釈する、説明する、論述するなどの言語

活動の充実を図ることで、地理学習における思考力・判断力・表現力を育成することができるであろう。

V 研究構想図



## VI 研究内容

### 1 理論研究

#### (1) 社会科における思考力・判断力・表現力

##### ① 中学校社会科の目標

(「中学校学習指導要領解説社会編」,「中学校教育課程講座社会」より引用)

中央教育審議会の答申は,学習指導要領改訂の基本的な考え方として「思考力・判断力・表現力等の育成」の重要性を述べている。さらに,「基礎的・基本的な知識,概念や技能を習得」して「知識・技能を活用する学習活動を充実させることを重視する必要がある」と述べている。

これを受け,新学習指導要領中学校社会科の目標は下記のように示されている(表1)。

表1 新学習指導要領中学校社会科の目標

広い視野に立って,社会に対する関心を高め,諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し,我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め,公民としての基礎的教養を培い,国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

現行の学習指導要領では,社会科各分野の目標は「様々な資料を適切に選択,活用して事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる」である。この目標の実現をめざし,今回の学習指導要領の改訂においても,各分野共通して「社会的事象の意味,意義を解釈する学習や事象の特色や事象間の関連を説明する」などの言語活動にかかわる学習を一層重視するとしている。

新学習指導要領においては,思考力・判断力・表現力の重要性を「生きる力」を育むため,学力の重要な3つの要素のひとつと示し,育成を図ることが必要とされている。

##### ② 社会科における言語活動

(「中学校学習指導要領解説社会編」,「中学校教育課程講座社会」,「言語力をつける社会科授業モデル」から引用)

中央教育審議会答申の社会科,地理歴史科,

公民科の改善の基本方針は3つ示されている。第2項目の内容を,岩田氏と米田氏が「言語力をつける社会科授業モデル」で整理した事項に一部修正を加えたものを次に示した(表2)。

表2 改善の基本方針第2項目

- ア 社会的事象に関する学ぶべき基礎的・基本的な知識,概念を明確にし,技能を確実に習得させ,それらを活用する能力や課題を探究する力を育成する。
- イ 習得すべき知識,概念の明確化を図る。
- ウ 一層重視する学習活動。
  - (7) コンピューターなども活用しながら,地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること。
  - (4) 社会的事象の意味,意義を解釈すること。
  - (9) 事象の特色や事象間の関連を説明すること。
  - (エ) 自分の考えを論述すること。

上記ウの内容は,習得した知識・技能を活用して「資料の読み取り」,「解釈」,「説明」,「論述」といった学習活動,つまり,社会科における言語活動を一層重視して改善を図る必要があると示している。

いくつかの文献同様,本研究でも「資料の読み取り」の段階から言語活動として捉えていくこととした。資料から情報を正確に読み取るだけでなく,数値からグラフや主題図を作成することも必要であり,それらを作成するためには思考し判断する力も必要だと考えられるからである。

社会科の言語活動としての「読み取り」,「解釈」,「説明」,「論述」をまとめ,難易度を示した(表3)。「論述」は難度が高い活動であり,言語活動を充実させるためには段階的な指導が必要であると考え。そして,それらの活動は知識や概念を活用して行われるものであり,それにより思考力,判断力,表現力を養うことができる」とされている。

しかし,こうした活動さえ行えば新学習指導要領に則しているということではなく,知識,

概念の質を高くし、有効に活用してこそ言語活動は充実するということに留意することが大切であると示されている。

表3 言語活動の内容と難易度

|      |                                                                                    |                              |
|------|------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| 読み取り | 地図やグラフなどの様々な資料から、情報（事実）を正確に読み取る。ただし、それらを作成する技能も必要。                                 | 易<br>↓<br>言語活動の難易度<br>↓<br>難 |
| 解釈   | 読み取った社会的事象の変化や特徴はどのような意味や意義があるのか、変化の背景にどのようなことがあったかなどを解釈する。                        |                              |
| 説明   | いくつかの社会的事象の比較を通して明らかになった事象の特色を説明したり、因果関係や事象間の関連を習得した知識・概念を活用して説明する。                |                              |
| 論述   | 自分の考えや意見を記述する活動、様々な問題について自分の考えや意見をレポートなどにまとめる活動が考えられる。特に、自分の結論の妥当性を根拠を挙げながら論理的に示す。 |                              |

### ③ 思考力・判断力・表現力の評価

（「児童生徒の学習評価の在り方について」、  
「思考力・判断力・表現力等を育成する指導と評価」より引用）

「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）以下「報告」と記載」によると、新学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえて、学力の3つの要素と観点別学習状況の評価の4観点は相互に関連しあっていることを整理して示している。それを、横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校編「思考力・判断力・表現力等を育成する指導と評価」の中では一つの表にまとめている。本研究では、「報告」の「評価に関する考え方」も含めて次にまとめた（表4）。

近年、「指導と評価の一体化」の重要性が高まっている。教育活動の中で計画・実践・評価のサイクルで指導を行うが、評価と指導は別のものではなく、評価の結果によって後の指導を改

表4 学力の3要素と4観点、評価に関する考え方

| 学力の3要素                              | 4観点      | 評価に関する考え方                                                                                |
|-------------------------------------|----------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 基礎的・基本的な知識・技能                       | 知識・理解    | 習得すべき知識や重要な概念等を理解しているかどうかを評価                                                             |
|                                     | 技能       | 習得すべき技能を身に付けているかどうかを評価                                                                   |
| 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等 | 思考・判断・表現 | 思考力・判断力・表現力等を身に付けているかどうかを評価。基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、思考・判断したことを、記録、要約、説明、論述、討論といった言語活動等を通じて評価 |
| 主体的に学習に取り組む態度                       | 関心・意欲・態度 | 学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を身に付けているかどうかを評価                                             |

善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという「指導に生かす評価」と言われている。

「評価を踏まえた教育活動の改善の重要性」の中で、4項目目に「個に応じた指導の充実」が示され、PDCAサイクルを確立することが重要であるとしている。つまり、評価規準を明確にして、課題があることが明らかな生徒に対しては「手だて」を行う必要があると考える。

このことから、思考力・判断力・表現力の育成のためには、PDCAサイクルの中で、「主体的に学習に取り組む態度」と「基礎的・基本的な知識・技能」を活用した「言語活動を充実させる」ことが大切だと理解した。

本研究では、単元の評価規準と評価方法、及び、課題がある生徒に対しての「手だて」を明確にする。そして、思考力・判断力・表現力の育成には長期的な取り組みが必要なので、PDCAサイクルを意識した評価をし、生徒の実態に合わせて指導の改善を図っていく。

## (2) 地理学習における思考力・判断力・表現力

### ① 地理学習における言語活動の充実

(「中学校学習指導要領解説社会編」より引用)

先にも述べたが、今回の改訂においては中教審答申「改訂の基本的な考え方」の中で思考力・判断力・表現力等の育成が重視され、そのために言語活動を充実させることが示された。地理的分野の目標の実現を図ることは、今回の学習指導要領改訂の基本的な考え方と方針が同じである。

地理学習において欠かせないのが、地図や統計など様々な資料の活用である。情報が増大・多様化しているため、資料の収集、選択、処理、活用する能力の育成を一層重視することが求められている。また、地図や資料から読み取る能力だけでなく、作成する能力などの地理的技能をしっかりと身に付けさせるよう指導の工夫を図ることも重視されている。

地理学習で扱う地理的事象は様々な面をもっており、それを地理学習では様々な角度で追究している。多面性をもつ地理的事象は、それを捉える観点によって大きく変化し、とすると一面的な考察、判断に陥りやすい。そのために地図や資料から根拠となる情報（事実）を読み取る力をつけ、資料に基づいて考察し、公正に判断する能力や態度を身に付けさせることは、思考力・判断力の育成を重視する観点から特に大切とされている。

また、考えたこと判断したことを表現する力の育成も大切である。根拠となる情報（事実）に関して理由を説明したり、自分の考えや意見を論述したり、意見交換したりする言語活動を充実させることが必要とされている。

ある地理的事象に対して、様々な資料から根拠となる情報（事実）を読み取り、これまで学習した知識や技能、自分の経験を活用して、自分なりの考えや意見を論理的に述べる。自分とは異なる立場の意見や考えを聞いて、自分の意見に深まりを持つ。これらの言語活動を通して地理学習における思考力・判断力・表現力を育

成することができると考える。

その学習活動をスムーズに行うことができるワークシートの工夫など、丁寧な学習指導が必要である。

### ② 思考の過程が見えるワークシート

(「バタフライ・マップ法」からの引用)

「バタフライ・マップ法」とは信州大学教育学部の藤森裕治氏が提案するもので、「蝶の形を模した一枚のマップを使って、生徒の脳内に論理力を構成する思考の枠組みを焼き付ける学習法」と示されている。

マップには合計六つのパーツがあり、それぞれのパーツは、論理力を育てるために欠かすことのできない項目を設定している。項目名は授業の目的や内容に応じて変更することができる。

生徒たちは、各項目に書き込む内容をテキストから見つけ出したり、自分で考えたり感じたりする。羽のパーツ上で自分の思考の過程を振り返ることもでき、また、学習を進める中で論理力や要約力が鍛えられ、伝える力が伸びるということである。

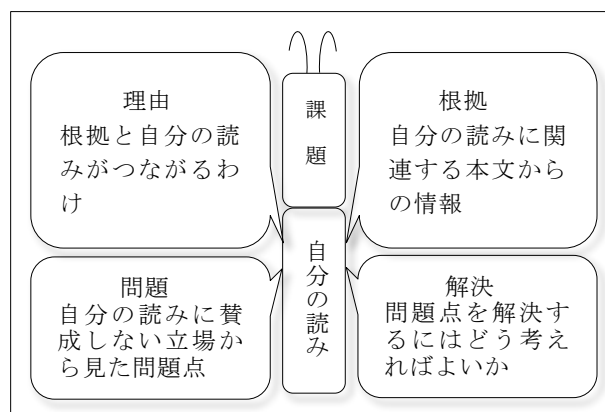


図1 バタフライ・マップ  
(「バタフライ・マップ法」2007 より)

頭のパーツには学習課題を書き込むが、課題をどのような言語表現で示すか、「バタフライ・マップ法」の成否はここにかかっている」と藤森氏は述べている。キーワードとなる用語の定義をはっきりさせること、論点や争点を明確に見通すこと、共同の探究問題が見出されていること、「〇〇である。是か？非か？」型にすることなど4つの留意点が示されている。

胴のパーツには、学習課題について自分はどうか感じ、どう考え、どんな立場を支持するか「自分の読み」を書き込む。胴体の部分を構成する2つのパーツは、学習を進める上で4つの羽をつなぐための最も大切な中心軸であるとされている。

4枚のパーツである蝶の羽に、考え方の道筋を右上から順に「根拠」、「理由」、「問題」、「解決」と分ける。生徒が考えを持ち、自分の意見を組み立てる時の思考方法に沿った設計であるという。

「根拠」の羽には、学習課題に関連する情報として本文に書いてあることを、「理由」の羽には、根拠と自分の読みがつながる理由を考えて記入する。「根拠」「理由」の羽が、課題と自分の読みを軸として思考の展開図が対称形をなしていることが大切であると示されている。

「問題」の羽には、自分の読みに賛成できない立場から考え、「根拠」「理由」の羽を批判的に検討する。この羽はメタ認知にあたり、これまでの学習を振り返り、自分の出した結論はどんな問題点をもっているかを考える大切な羽であると考え。藤森氏も「問題」の羽に関して「論理力を育てる上で大切な批判的思考力は、ここで育てられる」と述べている。

「解決」の羽には、どうすれば自分の読みの問題点が克服されるかを考え記入する。「問題」の羽との対応が重要で、「問題」の羽で記入したことは、解決策を自分で見つけ出さなければならないのである。

本来、国語で使用される「バタフライ・マップ法」を本研究で取り入れ、社会的事象に対する自分の意見や考えを論理的に述べることができるよう工夫していこうと考える。

## 2 指導計画

実態調査と分析を行い、指導計画を作成する。

### (1) 生徒の実態調査と分析

#### ① 調査目的

地図や資料を活用した問題で実態調査を行い、本研究の資料として役立てる。

#### ② 調査方法

ア 地図や資料を活用したレディネステスト

イ 調査日：平成23年9月21日

ウ 調査対象：沖縄市立コザ中学校1年1組

男子23名 女子17名 計40名

#### ③ 問題と結果及び考察

【問1】ある国の首都の場所を、地図帳のさくいんで調べることにしました。すると、「41F 6N」という記号が出てきました。ある国の首都とは何という都市ですか。答えなさい。

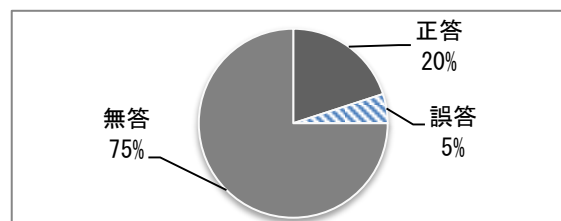


図2 地図帳さくいんの引き方

(問1 考察) 地図帳のさくいんの使い方を習得している生徒は20%である。地図の活用は今回の学習指導要領で重視されていることなので、地理学習の基本である地図帳の使い方をきちんと習得させる必要がある。

【問2】世界一人口の多い国を調べるために、統計資料を使うことにしました。その国名と人口を答えなさい。

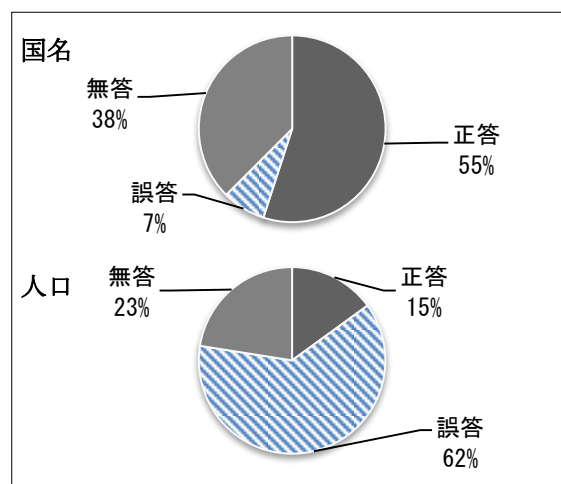


図3 統計資料の使い方

(問2 考察) 統計資料の使い方は約半数近くがある程度習得していると考えられる。しかし、国名は55%が正解だが、統計資料から調べて答えたのではなく、「人口が多い国は中国である」

という知識がある生徒もいると考えられる。人口数の読み取り問題で、誤答が 62%になっているのは、単位（万人）を見落としていることが要因である。統計資料を活用する時は、単位に留意するよう指導が必要である。

【問 3】日本の食料自給率のグラフを見て答えなさい。日本の食料自給率は何%ですか。

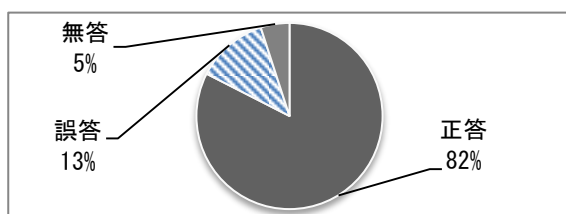


図 4 グラフの読み取り①

【問 4】日本の食料自給率のグラフを見て答えなさい。食料自給率が一番高い品目は何ですか。

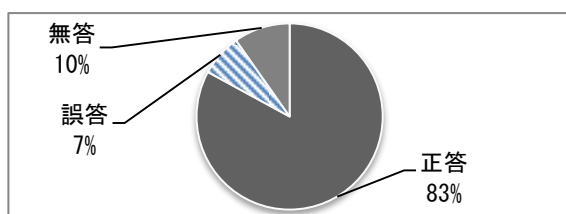


図 5 グラフの読み取り②

(問 3～4 考察)「何%か」、「何が高いか、低い」などグラフの単純な読み取りはできる生徒が多い。これまでの定期試験などでも、このような問題は正答率が高い。しかし、誤答・無答の生徒が 17～18%いるので、題名や発行元、グラフの縦軸・横軸の把握などグラフの基本的な読み取り方を習得させたい。

【問 5】日本の食料自給率のグラフを見て答えなさい。日本が輸入に頼っている割合が一番高い品目は何ですか。

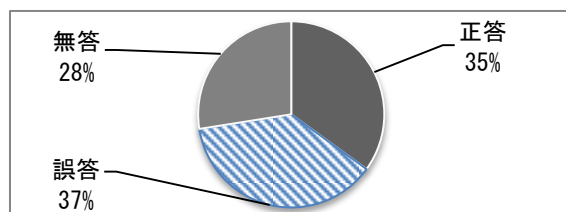


図 6 グラフの読み取り③

(問 5 考察) 食料自給率の意味を理解していない生徒のために、「食料自給率とは自分たちの食べ物自分たちで作っている割合のこと」と説

明を記載した。我が国の食料自給率が「40%」と答えられた生徒が 82%もいるのに対して、我が国の食料輸入率を食料自給率のグラフから判断して答えられる生徒が 35%に減った。資料の読み取りにおいては単純な読み取りだけではなく、その背景には何があるかなども考えさせたい。

【問 6】問 5 の答えをどのように考えて導きましたか。説明しなさい。

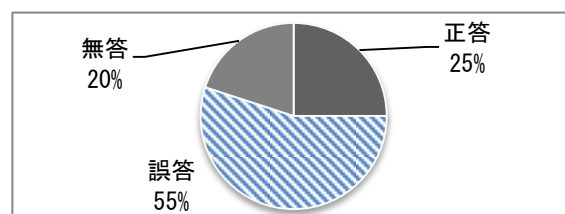


図 7 思考力・表現力を問う問題①

(問 6 考察) どのように答えを導き出したかを説明する問題である。問 5 で正答が 35%だったのが 25%に減っている。これは、本校の生徒の課題としてあげられる点である。適切な表現で説明することができる力を育成したい。

【問 7】日本の食料自給率は多くの品目で年々減ってきています。このまま減り続けていくと、どんな問題がおこると考えられますか。あなたの考えや意見を述べなさい。

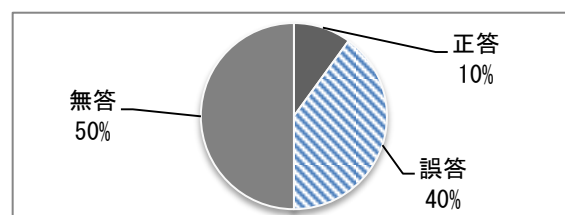


図 8 思考力・表現力を問う問題②

(問 7 考察) 自分の知識や経験と関連付けて、自分の考えや意見を述べることができる生徒は 10%である。その中には自分の考えを述べてはいるが、根拠となる理由が弱い生徒もいる。本校の生徒の最大の課題である「自分の考えや意見を論理的に述べること」に重点をおいた学習指導を重視する必要がある。

【全体の考察】

調査対象の学級は、基礎的・基本的事項の定着が課題とされている生徒が多い。社会科は積

み重ねが大切である教科に比べると、これからの学習への取り組み次第で改善できる教科である。「できた」「わかった」と意欲を持たせたい。

地理学習に必要な地理的技能を育成するには、地図や資料から情報の読み取りだけでなく、地理的数値データから図表を処理作成することができる「活用」能力も必要である。さらに、地理的事象を解釈し、知識や経験と結び付けて考

え、自分の意見を加えて説明するなどの言語活動を地理学習で充実させ、思考力・判断力・表現力の育成を図りたい。そのために、次の3点を授業づくりの視点とする。

ア 地理的技能の育成を図る。

イ 地図や資料を活用した言語活動（論理的な文章を書く・話す指導）の工夫。

ウ 論理的な思考を深める指導の工夫。

## (2) 指導計画の作成

下記の点に留意して、指導計画を作成する。

- ① 全時を通して、学習の見通しを持たせ、学習のふり返りをさせる。
- ② 地理的技能の育成を図る。
- ③ 言語活動の充実を図る。
- ④ 論理的な思考を組み立てる学習指導の工夫を図る。
- ⑤ 評価規準、評価方法を明確にする。

「単元の指導計画」

| 時 | 学習活動・内容<br>太文字は言語活動の充実                                                                                                                                                               | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                                                                                  | 評価規準と評価方法<br>○は評価規準・()は評価方法                                                                                                                                                                                               |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | <p>「広い範囲に及ぶアジア(1)」</p> <p>①世界の気候分布図や地形図よりアジアの自然環境を把握する。</p> <p>②地域や季節によって降水量に違いがあるのはなぜか考える。</p> <p><b>③季節風とアジア州の気候の関係について、文章にまとめる。</b></p> <p><b>④班で発表。互いに比較検討し、より良い表現方法を学ぶ。</b></p> | <p>①雨温図の読み取り方を習得させる。</p> <p>②雨温図より「事実(情報)の取り出し→疑問→予想→学習→解決(まとめ)→深化」の流れにそって学習を展開させる。季節風の向きと降水量に関係があることに気付くよう発問を工夫する。ポイントとなることは付箋紙に記入させておく。</p> <p>③文型を提示する。また、付箋紙(ポイントカード)を使用して文章を作らせる。</p> <p>④互いに比較検討させ、より良い表現方法を学ばせ、自分の文章に深まりを持たせる。「深化」の欄に再度記入させる。</p> | <p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <p>○季節風とアジアの気候の関係を考え説明できる。<br/>(ワークシートへの記述分析)</p> <p><b>【技能】</b></p> <p>○雨温図の読み取り方を習得している。(発言の確認)</p> <p><b>【知識・理解】</b></p> <p>○アジアの気候の特色について、基礎的・基本的事項を理解し、その知識を身に付けている。<br/>(ワークシートへの記述分析)</p> |
| 2 | <p>「広い範囲に及ぶアジア(2)」</p> <p>グラフや主題図の作り方</p> <p>①アジア各国の基本データ(人口・面積・人口密度など)を統計資料から調べる。</p> <p>②グラフや主題図の読み取り方や作り方を習得する。</p> <p><b>③作成ポイントを各自でワークシートに記入する。</b></p>                         | <p>①統計資料の使い方を習得させる。グラフを作成しやすいように、茶や米の生産がさかんなことにも気づかせる。</p> <p>②「茶の輸出」「米の消費量」を例にグラフの基本的な読み方、作り方を習得させる。</p> <p>③班で共有し、グラフや主題図の作成ポイントを習得させる。</p>                                                                                                            | <p><b>【技能】</b></p> <p>○統計資料の使い方を習得している。<br/>(行動の観察・発言の確認)</p> <p>○グラフや主題図の読み取り方、作り方を習得している。<br/>(グラフ・主題図の作成確認)</p>                                                                                                        |
| 3 | <p>「集中する人口・中国の人口」</p> <p>①アジアに集中する人口や中国の人口を調べる。</p> <p>②アジア州の人口密度の主題図から、どんなところに人口が集中しているのかを調べ、なぜ、</p>                                                                                | <p>①統計資料から調べさせる。「人口密度」についても理解させる。</p> <p>②主題図より「事実(情報)の取り出し→疑問→予想→学習→解決(まとめ)→深化」の流れにそって学習を展開させる。付箋紙(ポイントカード)に根拠とな</p>                                                                                                                                    | <p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <p>○人口集中地域がどのようなところか、なぜ、そこに集中するのかを考え、説明できる。<br/>(ワークシートへの記述確認)</p>                                                                                                                               |

|     |                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                          |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | <p>そこに集中するのか理由を考えさせる。</p> <p>③人口集中地域がどんなところかについて、文章にまとめる。</p> <p>④班で発表、互いに比較検討し、より良い表現方法を学ぶ。</p>                                                                                                                           | <p>ることを記入させておく。今回は根拠に対する理由も記入させる。</p> <p>中国の人口分布や民族分布、「一人っ子政策」についても理解させる。</p> <p>③文型を提示する。付箋紙（ポイントカード）を使用して、文章を作らせる。</p> <p>④互いに比較検討させ、より良い表現方法を学ばせ、自分の文章に深まりを持たせる。「深化」の欄に再度記入させる。</p>                                                                                                      | <p>【技能】</p> <p>○統計資料の使い方を習得している。</p> <p>（ワークシートへの記述確認）</p>                                                                                                                                               |
| 4   | <p>「アジア・中国の農業」</p> <p>①「中華料理」のメニューを発表する。</p> <p>②「中国の農業は気候や自然と関係が深い。是か？非か？」というテーマに対して、「バタフライ・マップ」を使用して考えを記入する。</p> <p>＊批判の羽では、「米は基本的に温暖な地域で栽培されるが、日本では北の地方でも盛んに栽培している」ことについて理由を考える。</p> <p>③班で発表、互いに比較検討し、より良い表現方法を学ぶ。</p> | <p>①「中華料理」を自由に発言させ、材料を米・小麦・他に分けさせる。</p> <p>②テーマに対して、「自分の読み→根拠→解決→批判→深化」の手順を踏んだ「バタフライ・マップ」を使用させ、自分の思考の過程を確認させながら、論理的に考えを記入させる。</p> <p>小学校の既習知識から、品種改良や農家の人々が工夫を行っていることに気付かせたい。</p> <p>③互いに比較検討させ、より良い表現方法を学ばせ、自分の文章に深まりを持たせる。「深化」の欄に再度記入させる。</p> <p>人々は自然に合った農業を行い、さらに、工夫していることにも気づかせたい。</p> | <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○アジアの農業と気候の関係を考え、説明している。</p> <p>（ワークシートへの記述分析）</p> <p>【知識・理解】</p> <p>○農業と降水量や気温との関連について基本的事項を理解し、その知識を身につけている。</p> <p>（ワークシートへの記述分析）</p>                                            |
| 5   | <p>「アジア・中国の工業」</p> <p>①タイの輸出品割合のグラフから変化を読みとり、工業が発展した理由を考える。</p> <p>②中国が「世界の工場」と呼ばれる背景を考察する。</p> <p>③中国に地域格差がある要因をまとめる。</p>                                                                                                 | <p>①グラフの変化に注目させる。また、外国企業が進出している主題図、賃金格差のグラフから考察させる。</p> <p>経済特区や工業団地についての説明を加える。</p> <p>②主題図より「世界の工場」と呼ばれる理由を考えさせる。</p> <p>③東部と内陸部の経済格差がある要因を文章にまとめさせる。</p>                                                                                                                                 | <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○工業の発展と外国企業の進出の関連を、考えることができる。</p> <p>○主題図を利用し既習知識と関連づけて、地域格差の要因を考えることができる。</p> <p>（ワークシートへの記述分析）</p> <p>【知識・理解】</p> <p>○アジアの工業について基本的事項を理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>（ワークシートへの記述分析）</p> |
| 6・7 | <p>「日本とアジアの結びつき」</p> <p>①日本とアジアの関係を文化面や貿易面から把握する。</p> <p>②日本の工業や農業が抱えている問題を資料から読み取り、アジアとの貿易の課題を考える。</p> <p>③アジアとの貿易に関する課題を発表する。</p> <p>④「日本はアジアとの関係（貿易や工場の進出）をこのまま維持した方が良い。是か？非か？」のテーマに対して、「根拠」を考</p>                      | <p>①歴史的な面からも日本とアジアの関係を確認させる。また、教科書の資料から見つけ出させる。</p> <p>②疑問を抱くような資料を提示する。</p> <p>＊「日本の失業率のグラフ」の資料</p> <p>＊「アジアから日本への輸入品」の資料</p> <p>「日本も生産しているものを輸入しているのは、コストが安いからだけど、このままでいいのかな？」などの疑問を持たせたい。</p> <p>③「日本はアジアとの関係（貿易や工場の進出）をこのまま維持した方が良い。</p>                                                | <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○アジアとの貿易の利点や欠点を把握し、課題点を見つけている。（ワークシートの記述分析）</p> <p>【技能】</p> <p>○アジアと日本の関係に関する資料を収集し、必要な情報を適切に選択して、読み取ったことをまとめている。</p> <p>（ワークシートの記述分析）</p>                                          |

|   |                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                       |
|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|   | える。                                                                                                                                                                        | <p>是か？非か？」のテーマにまとまるよう導く。</p> <p>④テーマに対して、「自分の読み」と「根拠」を付箋紙に書き出しておく。</p>                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                       |
| 8 | <p>「日本とアジアの結びつき」</p> <p>①前時の復習と本時のテーマを確認する。</p> <p>②「日本はアジアとの関係（貿易や工場の進出）をこのまま維持した方が良い。是か？非か？」のテーマに対して、「バタフライ・マップ」を使用して自分の考えや意見を記入する。</p> <p>③班で発表，互いに比較検討し，自分の考えを深める。</p> | <p>①既習知識が出るようにする。</p> <p>②テーマに対して、「自分の読み→根拠→解決→批判→深化」の手順を踏んだ「バタフライ・マップ」を使用させ，自分の思考の過程を確認させながら論理的に考えを記入させる。</p> <p>③互いに比較検討させ，自分の考えを多面的・多角的に考察させる。「深化」の欄に再度記入させる。</p> | <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>○日本とアジアの関係がどうあるべきかを，意欲的に追究している。</p> <p>（行動の観察・記述の確認）</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○自分の思考の過程を確認しながら，論理的に考えや意見を述べている。</p> <p>（ワークシートの記述分析）</p> <p>○互いに比較検討していく中で，自分の考えを深めている。</p> <p>（ワークシートの記述分析）</p> |

### (3) 「単元の評価規準」と「Cと判断される生徒への手だて」

| 4<br>観<br>点                          | 評価規準                                            | 「十分満足できる」状況（A）と判断される生徒の具体的な例                                                                                     | 「満足できる」状況（B）と判断される生徒の具体的な例                                                   | 「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の具体的な例<br>生徒への手だて（○印）                                                                                                            |
|--------------------------------------|-------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 関<br>心<br>・<br>意<br>欲<br>・<br>態<br>度 | アジアの国々と日本の貿易関係に関心を持ち，グラフなどの資料からその特色を追究しようとしている。 | アジアと日本の貿易関係に関心が高く，グラフや資料からアジア州の地域的特色を3つ以上あげることができ，意欲的に追究していることが判断できる。                                            | アジアと日本の貿易関係に関心を持ち，グラフや資料からアジア州の地域的特色を1～2つあげることができ，追究していることが判断できる。            | アジアと日本の貿易関係に関心がなく，グラフや資料からアジア州の地域的特色をあげることが難しい。<br>○グラフから読み取ったことを再度確認させる。日本が抱えている問題とアジアとの貿易に疑問がないか，考えさせる。また，アジアと日本の貿易関係がどのようなものであってもよいかをワークシートに記入させる。 |
| 思<br>考<br>・<br>判<br>断<br>・<br>表<br>現 | 写真や地図，雨温図などの資料から，アジアの気候と季節風との関連を考え，説明している。      | 写真や地図，雨温図などの資料を利用して，アジアの気候と季節風との関連を考えることができ，「季節風」「季節によって風向きが変わる」「大陸から吹く冬の乾いた風」「海から吹く夏のしめった風」など，適切なことばを使って説明している。 | 写真や地図，雨温図などの資料を利用して，アジアの気候と季節風との関連を考えることができ，「季節風」「冬の風」「夏の風」などのことばを使って説明している。 | 地図，雨温図などの資料を読み取ること，気候と季節風の関連を考えることが難しい。<br>○写真や地図，雨温図などの資料の読み取りを習得させる。また，教科書の文章から，気候と季節風の関連を記述している部分を見つけさせる。                                          |
|                                      | アジア州の人口分布について自然・農業・工業などとの関連                     | 人口分布と自然・農業・工業などとの関連を考えることができ，「平野が広がり」「沿岸部」「農業                                                                    | 人口分布と自然・農業・工業などとの関連を考えることができ，「平野が広がり」「沿岸部」「農業                                | 人口分布と自然・農業・工業などとの関連を考えることや，適切なことばを使って説明することが難しい。                                                                                                      |

|          |                                       |                                                                                                                                        |                                                                                                                       |                                                                                                                                     |
|----------|---------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|          | を考え説明している。                            | に適している地域」「工業が発展している地域」などの適切なことばを3つ以上使って説明している。<br>意見交換の場で論理的に意見や考えを述べ、他の意見も参考にし、自分の考えを深めることができる。                                       | に適している地域」「工業が発展している地域」などの適切なことばを1～2つ使って説明している。<br>意見交換の場で意見や考えを述べ、他の意見も参考にし、自分の考えを深めることができる。                          | ○自然の特色、農業がさかんな地域や工業が発展している地域など、既習学習を振り返らせ、ポイントとなる部分を書き出させる。また、テキストを使用して、自分の意見を述べる方法を確認させる。                                          |
| 思考・判断・表現 | 農業（稲作・畑作の分布）・牧畜と降水量との関係を考え、説明している。    | 写真や地図、雨温図などの資料を使用して、農業（稲作・畑作の分布）・牧畜と気温や降水量との関係を考えることができる。「稲作は気温が高く降水量が多い地域」「畑作は気温が低く降水量が少ない地域」「羊の牧畜は気温が低く乾燥している地域」などの適切なことばを使って説明している。 | 写真や地図、雨温図などの資料を使用して、農業（稲作・畑作の分布）・牧畜と降水量との関係を考えることができる。「稲作は降水量が多い地域」「畑作は降水量が少ない地域」「羊の牧畜は乾燥している地域」などのことばを使って説明している。     | 写真や地図、雨温図などの資料の読み取りを習得させる。また、教科書の文章から、気候と農業の関係を記述している部分を見つけさせる。                                                                     |
|          | 工業の発展と外国企業の進出との関連を考えることができる。          | 地図や資料を使用してアジアや中国の工業の発展と外国企業の進出との関連について考えることができる。「アジアの賃金が安い」「資源が豊富」「土地が広く工場誘致がさかん」などの理由を3つ以上考えることができ、適切なことばを使って説明している。                  | 地図や資料を使用してアジアや中国の工業の発展と外国企業の進出との関連について考えることができる。「アジアの賃金が安い」「資源が豊富」「土地が広く工場誘致がさかん」などの理由を1～2つ考えることができ、適切なことばを使って説明している。 | 地図や資料を使用してアジアや中国の工業の発展と外国企業の進出との関連を考えることが難しい。<br>○地図や資料の読み取りを習得させる。また、教科書の文章や写真から、外国企業が進出していることを記述している部分を見つけさせる。                    |
|          | 写真やグラフなどの資料からアジアの国々と我が国の関わりを考え追究している。 | 写真やグラフなどの資料から読み取ったことを自分の課題として捉え、アジアの国々と我が国のかわりを3つ以上考えることができ、意欲的に追究している。<br>意見交換の場で論理的に意見や考えを述べ、他の意見も参考にし、自分の考えを深めることができる。              | 写真やグラフなどの資料から読み取ったことを自分の課題として捉え、アジアの国々と我が国のかわりを1～2つ考えることができ、追究している。<br>意見交換の場で意見や考えを述べ、他の意見も参考にし、自分の考えを深めることができる。     | 写真やグラフなどの資料から読み取ることや自分の課題として捉えることが難しい。<br>○写真やグラフなどの資料の読み取りを習得させる。読み取れたことに「なぜ？」と疑問を持たせ、答えを考えさせる。<br>また、テキストを使用して、自分の意見を述べる方法を確認させる。 |
| 技能       | 地図や写真、グラフなどの様々な資料の基本的な地理的技能           | 地図や写真、グラフなどの様々な資料の読み取り方や作り方を習得して、十分に活用するこ                                                                                              | 地図や写真、グラフなどの様々な資料の読み取り方を習得している。また、グラフなどを作るこ                                                                           | 地図や写真、グラフなどの様々な資料の読み取り方を習得することが難しい。<br>○地図帳の使い方やグラフの                                                                                |

|       |                                                   |                                                                          |                                                                          |                                                                                                |
|-------|---------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | を身に付けている。                                         | とができる。                                                                   | とはできる。                                                                   | 読み取り方（縦軸・横軸の意味など）を再確認させる。<br>グラフの作り方は縦軸・横軸の目盛の意味を理解させて作成させる。                                   |
| 技能    | アジアと日本の関係に関する資料を収集し、必要な情報を適切に選択して、読み取ったことをまとめている。 | 適切な資料を収集することができ、必要な情報を適切に選択して、読み取ったことを適切にまとめることができる。                     | 資料を収集することができ、必要な情報を選択して、読み取ったことをまとめることができる。                              | 資料を収集することや必要な情報を選択すること、読み取ることが難しい。<br>○資料の題名から「日本とアジアの関係」に合うような資料を探すよう指示する。どの資料が必要かを考えさせ選択させる。 |
| 知識・理解 | アジアの気候の特色、農業、工業、人々の生活などの地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。   | アジアの気候の特色、農業や工業、人々の生活など、地域的特色を理解し、ワークシートの記述などから 85%以上その知識を身に付けていると判断できる。 | アジアの気候の特色、農業や工業、人々の生活など、地域的特色を理解し、ワークシートの記述などから 60%以上その知識を身に付けていると判断できる。 | アジアの気候の特色、農業や工業、人々の生活など、地域的特色の理解がワークシートの記述などから 60%以下である。<br>○基礎的・基本的事項の見直し、重要語の確認をさせる。         |

### 3 授業実践

#### (1) 学習の見通しと振り返り

中学校新学習指導要領第1章総則第4の2(6)に「各教科等の指導に当たっては、生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画に取り入れるように工夫すること」と示されている。

生徒自身に「何を」「どのように」学び、その学びには「どのような意味があるのか」を把握させることは、自主的に学ぶ態度を育むことにつながる。

本単元では、全時間を通して「地図や資料を活用した学習」を「情報を読み取る、疑問を持つ、予想する、調べる、考えや意見を論理的に述べる」の手順で学ぶこと。そして、その学びには「相手に分かりやすく伝える」という意味があることを示す。

生徒が学習の見通しを立てることができれば、相手に分かりやすく伝えようとする目的意識を持たせることができ、詳しく学習しようという意欲につなげることができるであろう。

さらに、相手に分かりやすく伝えることができれば意見交換もスムーズに行われ、自分の意

見と他者の意見の比較検討もでき、自分の考えを深めることもできると考える。

また、学習の振り返りに関しては、学習指導要領解説第3章第5節6でも「事後に振り返ったりすることで学習内容の確実な定着が図られ、思考力・判断力・表現力等の育成にも資するものとする」と記されている。学習を振り返り、習得した知識や技能を確認（メタ認知）し、次の学習の見通しにつなげることができる。

本研究では学習後に自己評価を実施する（図9）。当初の自分の考えがどうなっていたかを記入させたり、発表する場を設定したり、学習

(4:とてもそう思う 3:そう思う 2:あまり思わない 1:思わない)

①地図や資料から「事実(情報)」の取り出しができた。 4・3・2・1

②「疑問」を持つことができた。 4・3・2・1

③「疑問」に対して「予想」することができた。 4・3・2・1

④調べたことをカードに記入することができた。 4・3・2・1

⑤カードを利用して「解決」する文章を作ることができた。 4・3・2・1

⑥自分の意見を班で発表することができた。 4・3・2・1

⑦班員の発表を聞いて、自分の意見を深めることができた。 4・3・2・1

⑧感想

(学習を通して自分の予想がどう変化したか、意見はどう深まったかなどを記入)

図9 自己評価

目標の振り返りをさせる。生徒自身が「自分は  
どう成長したか」を確認することで、学んだこ  
との充実感や達成感を味わうことになり、自己  
肯定感が向上すると考える。

## (2) 地理的技能の育成

中央教育審議会答申「改善の基本方針」の第  
2項目において、「(前略) 地図や統計など各種  
の資料から必要な情報を集めて読み取ること、  
社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象  
の特色や事象間の関連を説明すること、自分の  
考えを論述することを一層重視する方向で改善  
を図る」と示されている。

「読み取ること」は、地図やグラフなどの様  
々な資料から事実を正確に読み取ることとされ  
ている。そのために、地図帳の使い方、統計資  
料の読み取り方、グラフや主題図などの読み取  
り方や作り方の基本的な技能を身に付けさせる。  
それらの地理的技能を、単元を通して適宜指導  
する。特にグラフや主題図は、①題名の確認、  
②発行元の確認、③縦軸・横軸の意味、④凡例  
の意味などを必ず確認させる。

また、「読み取りポイント」や「作り方ポイント」  
を生徒各自でワークシートに記入させ、班  
で共有することで基礎的・基本的な技能の定着  
を図りたい。

## (3) 論理的な文章を書く・話す指導

「解釈」は、資料から読み取れる社会的事象  
の変化や特徴はどのような意味があるのか、変  
化の背景にはどのようなことがあったのかなど  
を考えさせていきたい。

「説明」、「論述」は、根拠となる事実を地図  
や資料から取り出させ、それを裏付ける理由を  
見つけたり考えさせたりする。自分の考えや意  
見を記述させることができるように下記の工夫  
を行う。

### ① ワークシートの工夫

毎時間のワークシートが、「事実(情報)の取  
り出し→疑問→予想→学習→解決(まとめ)→  
深化(深まり)」の流れになるように工夫する。  
クリティカル・リーディング(批判的思考)も

取り入れ、考えに深まりがでるようにしたい。

また、本来、国語で使用されている「バタフ  
ライ・マップ」を、本単元では一部アレンジし  
て使用することにする(図10)。

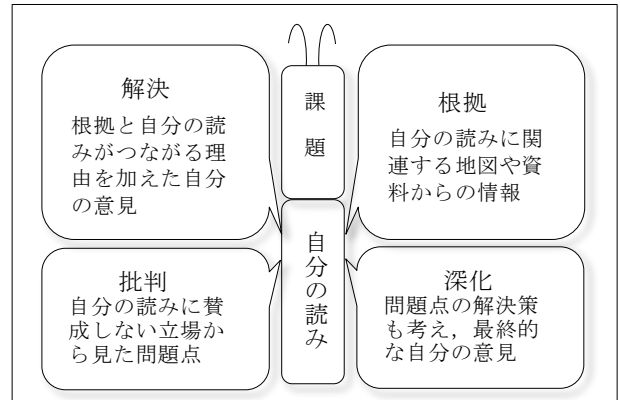


図10 バタフライ・マップ(社会科編)  
(「バタフライ・マップ法」2007 より一部アレンジ)

蝶の頭には学習課題、その下には「是」、「非」  
の立場と自分の読みを記入する。4枚の蝶の羽  
には右上から「根拠」、「解決」、「批判」、「深化」  
のパーツを作る。

「根拠」の羽には、自分の読みが正しいと判  
断できる事実を地図や資料から取り出し、理由  
も合わせて記載する。それらを組み合わせ、自  
分の考えや意見を加えて「解決」の羽に記載す  
ることになる。藤森氏のマップでは右下にあった  
「解決」の羽を、本研究では左上に設置した。

「批判」の羽は、クリティカル・リーディン  
グ(批判的思考)を記載する。自分の考えや意  
見に対しての問題点を自分自身で考えだすこと  
によって、論理的な思考力はさらに深まると考  
える。

本研究で新しく設置した「深化」の羽は、問  
題点の解決策も考え、様々な立場からテーマに  
沿った意見や考えを総合的に判断し、最終的な  
自分の考えや意見を記す。最初に記した「自分  
の読み」から考えや意見が変わっても良い。

### ② 付箋紙(ポイントカード)の使用

地図や資料から読み取った根拠となる情報、  
それに対しての理由や自分の考えは、一つずつ  
付箋紙に記入させる。

付箋紙を利用することが学習に効果的である理由について、藤森氏は「バタフライ・マップ法」で次のように述べている（表5）。

表5 付箋紙の効果

- ・情報の相互関係を自在に変更できる。
  - ・情報を集めたり加えたり削除したりすることが自在にできる。
  - ・限られたスペースに必要な情報を書き込むことで要約力がつく。
  - ・発表原稿を作る補助になる。
- バタフライ・マップ法に付箋紙を取り入れると、読む、書く、話す・聞く、見るの活動が全て連結するのである。

また、付箋紙に書かれている根拠や理由は、自分にとって一番重要なものから中心に並べ直すことも大切だと述べている。中心に近いものほど自分の読みを力強く支えてくれる論理になっているという。

本研究でも付箋紙を並べ直す活動を取り入れ、課題解決のための根拠や理由を見つめ直し、より重要な根拠や理由を選択できる力も育成したい。

### ③ 「文型」・「話型」を示す

自分の考えや意見を論理的に書き込むことができるように「文型」を用意する。その「文型」に合わせ、バタフライ・マップの付箋紙を見ながら論述する（表6）。

表6 文型  
（「バタフライ・マップ法」2007 より引用）

【テーマ】について、説明します。  
私（僕）は、【自分の読み】だと思いました。  
なぜなら【根拠】【理由】です。  
このことから【自分の読み】です。

1年生の段階から言語活動の環境を整えるために「型」にはめた論述を提示し、丁寧なことば遣いと論理的文章の基本型を習得させたいと考える。

本研究で示す「話型」とは、質問・返答の仕方である（表7）。発表する時だけでなく、「相手に分かりやすく伝える」ということは、質問

や返答にもルールがあることを指導していく。

特に「質問」は、相手を攻撃するような口調で答えを要求するのではなく、質問したいことに対する自分の考えを必ず先に述べ、そのことについてどう思うかという方法を提示する。

表7 話型

#### 1 質問

〇〇さんに質問します。

私は「質問したいことに対する自分の考え」と思いますが、このことについて、どう思いますか？

#### 2 返答(1)

〇〇さんにお答えします。

「質問に対する自分の考え」と思います。

#### 返答(2)

〇〇さんにお答えします。

私は～だと考えていましたが、〇〇さんの意見を聞いて、その意見のほうが良いと思いました。

## (4) 論理的な思考を深める指導

### ① 参考になる文例を示す

内容が良く、表現が上手な生徒の文章を数点選び、一枚にまとめ全員に配布する。良いところを参考にして、自分の文章を書き直させる。自分の文章の見直しをすることで、不足していた部分に気付いたり、良さを確認したり、自分の考えを深めることができる。

また、班活動としてお互いの発表を聞いて、良い考えや表現方法を付箋紙に記入し、自分の考えを深める時に参考にすることができる。活動終了後に本人に渡すことで、他者が認めてくれた自分自身の良さを確認することができ、自信につながると考える。

### ② 学習形態の工夫

「個」として取り組む場と「集団」で取り組む場を取り入れる。課題に対して「個」として考察し自分なりの判断をしたうえで、「集団」でお互いの考えや意見を交流する。「個」では気付かなかったことに気付いたり、違う立場の考えを知ることによって多角的・多面的な考察ができ、さらに自分の考えを深めることができる。

## 1 実践事例

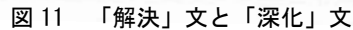
ねらい「自然の『なぜ?』を解き明かせ」



地図帳や教科書から、疑問を解決するための根拠を見つける学習を展開。最後に、「文型」を活用して解決文を作成する。



写真 2



付箋紙と文型を活用して書いた解決文(上)。  
互いの発表を聞き、参考になる文例を見て書き直した文(下)。

ねらい「グラフや主題図を攻略しよう！」



写真 3



写真 4



「円グラフ・帯グラフ」は割合（％）を、「棒グラフ・折れ線グラフ」は変化を表していることに気付く。同じ班で教えたり、習ったり…。作成ポイントは、個人で記入した後、みんなで共有！

## ねらい「人口が集中する『なぜ?』を解き明かす」



写真 5



写真 6



写真7

「人口集中地域の自然は、どうなっているのかな？」とつぶやき、地図帳を開いた。

第1時と同じ流れで学習を展開。グラフや主題図から情報を取り出し、付箋紙（ポイントカード）に記入。それを活用し、「文型」にあてはめて論述する。

#### (4) 第4時「アジアの農業」～中国の農業を中心に～

ねらい「農業の特色を知る」



写真 8

「根拠」の羽  
地図や資料より情報（事  
実）を見つけ付箋紙（ポ  
イントカード）に記入。

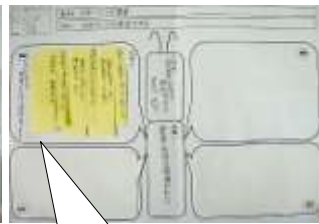


写真 9

「解決」の羽  
付箋紙（ポイントカード）  
を移動。根拠を明確にし、  
「文型」に合わせて論述。



写真 10

「批判」の羽・「深化」の羽  
付箋紙（ポイントカード）  
はさらに移動。批判の羽に  
対する答えを考えて記入。



写真 11

「深化」の羽  
課題に対する最終的な  
自分の考えや意見。

## 2 公開検証授業指導案

### 社会科学学習指導案

平成 23 年 12 月 13 日（火）

沖縄市立コザ中学校 1 年 1 組

男子 23 名 女子 18 名 計 41 名

授業者 新里 容子

(1) 単元名 「第3章 第1節 アジア州」

### (2) 単元目標

アジア州に暮らす人々の生活のようすを的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それをもとにした主題を設定して、アジア州の地域的特色を理解する。

### (3) 単元について

#### ① 教材観

第3章「世界の諸地域」は、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、オセアニアの6州について、それぞれの州の地域的特色を理解させることが主なねらいである。中学校学習指導要領解説社会科編地理的分野では、「それぞれの州内に暮らす人々の生活にかかわり、かつ我が国の国土の認識を深める上で効果的な観点から州内の特色ある地理的事象を基に主題を設定し、その追究を通して地域的特色を理解させる」と示している。

本単元「第1節アジア州」は、日本との距離が近く、また歴史的にも関係が深い地域で、生徒も関心があり既習知識も期待できる。そこで、様々な資料を的確に読み取ったり、地図を有効に活用して事象を説明したりするなどの学習活動を取り入れ、地理的技能を身に付けさせるとともに、アジア州に暮らす人々の生活にかかわり、アジア州の地理的特色を理解させる。さらに、適切な主題を設定し、その追究を通して自分の解釈を加えて論述し、意見交換するなどの言語活動を充実させるのに適した教材であると考える。

#### ② 生徒観

本学級の生徒は元気に発表するが、基礎的・基本的事項の定着が課題とされている生徒が多い。そのため、前期の歴史学習は班活動を中心に学習を展開した。小学校での既習知識もあり、また、歴史が好きな生徒もいたため、班での話し合いはスムーズに行われていた。自信がなく、どう進めていいかわからない生徒も班のメンバーに助けられて、課題に取り組むことができた。

地理学習を進めるにあたり、小学校社会科の内容でレディネステスト（平成 23 年 9 月実施）を行った結果、本学級の実態として次のことが分かった。

地図帳のさくいんから、国や都市の位置を調べることができる生徒は 20%である。地図の活用は今回の学習指導要領で重視されていることなので、地理学習の基本である地図帳の使い方をきちんと習得させる必要がある。また、統計資料から人口の多い国や面積の大きい国を調べることができる生徒は 55%いるが、人口数の読み取りで正答 15%と減少しているのは、単位（万人）の見落としが原因である。さらに、グラフを使用した問題では、グラフの単純な読み取り問題は 85%の生徒が正解しているのに対し、グラフを見て解釈する問題では正答 35%、グラフから自分の意見を述べるることができる生徒は 10%となった。地図や資料から読み取ったことを既習学習と関連付けて説明し、自分の考えや意見を論理的に述べることを苦手とする生徒が多い。

そこで、地図や資料の読み取り方を習得させ、自分の思考の過程をしっかりと確認させながら、考えや意見を論述できる力を育成したいと考える。

### ③ 指導観

本単元「アジア州」の学習においては、地理的な技能を身に付けさせるとともに、アジア州に暮らす人々の生活にかかわり地理的特色を理解させる。また、地図や資料から自分の知識や経験と結び付けて考える力、それを表現できる力、さらに、他の意見と自分の意見を比較検討することで、自分の考えを深めることができる力を育成することを目標としている。そのために、次の手だてを取り入れていく。

#### ア 生徒に学習の見通しを持たせる

生徒自身に「何を」「どのように」学び、その学びには「どのような意味があるのか」を把握させる。本単元では、ほぼ全時間を通して「地図や資料を活用した学習」を「情報の取り出し、疑問を持つ、予想する、調べる、考えや意見を論理的に文章に表す」の手順で学び、その学びには「相手に分かりやすく伝える」という意味があることを示す。

生徒に学習の見通しを持たせることで、「相手に分かりやすく伝えよう」とする目的意識を持たせることができ、「詳しく学習しよう」という意欲につなげることができるであろう。さらに、「相手に分かりやすく伝える」ことができれば、自分の意見と他の意見を比較検討することもスムーズに行われ、自分の考えを深めることもできると考える。

#### イ 地理的な技能の育成を図る

地図帳の使い方、統計資料の読み取り方、グラフや主題図などの読み取り方や作り方の基本的な技能を身に付けさせる。単元を通して適宜指導する。特にグラフや主題図は、「読み取りポイント」、「作り方ポイント」を生徒各自でワークシートに記入させ、班で共有することで基礎的・基本的な技能の定着を図りたい。

#### ウ 論理的な文章を書く・話す指導の工夫。

##### (ア) ワークシートの工夫

毎時間のワークシートが「情報の取り出し→疑問→予想→学習→解決（まとめ）→深化（深まり）」の流れになるように工夫する。クリティカル・リーディング（批判的思考）の部分も入れ、考えに深まりがでるようにしたい。

また、自分の思考の過程が見える「バタフライ・マップ」を使用する。蝶の形をした「テーマ」、「自分の読み」、「根拠」、「解決」、「批判」、「深化」のパーツがあり、論理力をつける学習活動を展開したい。

(イ) 付箋紙の使用

地図や資料から「根拠」となる情報、自分の「考え」、「理由」などを一つずつ付箋紙に記入させる。並べ替えることで、自分にとって重要な「根拠」や「理由」が何であるかを明確にできる。

(ウ) 「文型」を示す

自分の意見を論理的に述べることができるように「文型」を用意する。その「文型」に合わせて文章を書き、論述することができる。

(エ) 「話型」を示す

発表する時だけでなく、「相手に分かりやすく伝える」ということは「質問」、「返答」にもルールがあることを指導していく。

エ 論理的な思考を深める指導の工夫

(ア) 参考になる文例を示す

内容が良く、表現が上手な生徒の文章を選び、一枚にまとめ全員に配布する。良いところを参考にして自分の文章を書き直すことで、自分の考えを深めることができる。

(イ) 学習形態の工夫

「個」として取り組む場と「集団」で取り組む場を取り入れる。「個」として考察しある判断をしたうえで、お互いの考えや意見を交流する。意見交換をすることで「個」では気付けなかった視点がわかり、さらに自分の考えを深めることができる。

オ 生徒に学習のふり返りをさせる

学習を通して気が付いたことや、自分の予想がどうなっていたかをワークシートに記入させたり、発表する場を設定する。また、単元目標のふり返りをさせ、生徒自身がどう成長したかを確認することで「自己肯定感」が向上すると考える。

**(4) 本研究との関わり**

本研究で考える「地理学習における思考力・判断力・表現力」とは、地図や資料から解釈したことを、生徒自身が自分の思考の過程を確認しながら論述し、他の意見や考えを比較検討していく中で、自分の意見や考えを修正したり深めたりすることである。そのためには、言語活動を充実させることが必要であると考ええる。

さらに、沖縄市が取り組んでいる「自己肯定感」についても下記の点で本研究と関わりがある。

- ① 班活動において自分の意見や考えを述べることで、参加する価値や意義を感じる「存在感」。
- ② 他の意見や考えを知り、意見交換する関わりを持ち、互いに高め合う「有用感」。
- ③ 自分の考えを深めることで、達成感を味わい、主体的に頑張ろうという意欲を持てる「有能感」。

本単元を通して、地図や資料を活用する言語活動を充実させることにより、思考力・判断力・表現力の育成を図り、自己肯定感を高めていこうと考える。

**(5) 単元の指導計画** 報告書 112 ページに記載

**(6) 単元の評価規準** 報告書 114 ページに記載

**(7) 本時の授業について**

① 題材名 「日本と中国の結びつき」

② 目標

「日本はアジアとの関係（貿易や工場進出）を、このまま維持した方が良い。是か？非か？」のテーマに対して、資料を解釈し、自分の思考の過程を確認しながら論述できる。

互いの意見や考えを比較検討することで、自分の意見や考えに深まりを持つことができる。

③ 授業仮説

ア 地図や資料から情報を解釈し、課題に対する自分の意見や考えを書く場面において「バタフライ・マップ」を使用することにより、自分の思考の過程を確認しながら、論理的に意見や考えを述べることができるであろう。

イ 互いの意見や考えを述べる場において、自他の意見や考えを比較検討することにより、多面的・多角的に考察することができ、自分の意見や考えを深めることができるであろう。

④ 本時の展開（8／8時間目）

| 時間        | 学習活動                           | 生徒の活動                                                                                                                                               | 教師の支援                                                                            | 評価                       | 三観点        |
|-----------|--------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|------------|
|           |                                | ★言語活動の充実                                                                                                                                            | △指導上の留意点                                                                         |                          |            |
| 導入<br>5分  | 1 学習の見通しを持つ。                   | ○本時の学習テーマについて確認する。<br><br>「日本はアジアとの関係（貿易や工場進出など）を、このまま維持した方が良い。是か？非か？」<br><br>○学習の見通しを持つ。<br><br>自分の意見や考えを論理的に述べることができる。<br>比較検討して、意見や考えを深めることができる。 | △前時で練り上げたテーマを確認させる。<br><br>△学習目標を提示し、学習に見通しを持たせる。                                | 【関心・意欲・態度】               |            |
| 本時<br>40分 | 2 バタフライ・マップを作成する。<br>【授業仮説ア】   | ★資料から読み取った必要な情報をもとに、自分の考えや意見を書く。                                                                                                                    | △「自分の読み→根拠→解決→批判→深化」の手順を踏んだ「バタフライ・マップ」を使用させる。                                    | 【思考・判断・表現】               | 有能感        |
|           | 3 自分の考えや意見を述べ、話し合う。<br>【授業仮説イ】 | ★テーマに基づいた自分の考えや意見を述べ、話し合う。（他者の考えや意見への質疑や問題点の指摘など）<br>★互いの考えや意見を比較検討することで、自分の意見や考えに深まりをもつことができる。                                                     | △話し合いの進め方を確認しておく。<br>△自分の思考の過程を確認させながら、論理的に考えを述べるようにさせる。                         | 【関心・意欲・態度】<br>【思考・判断・表現】 | 存在感<br>有用感 |
|           | 4 自分の考えを再構築する。<br>【授業仮説ア】      | ★自分の考えがどのように深まったかを含めて、再度自分の意見を書く。                                                                                                                   | △自分の考えがどのように深まったかを「深化」の羽に記入させる。<br>△数名発表させる。<br>話し合いを経て、自分の考えがどのように変化したかを振り返らせる。 | 【思考・判断・表現】               | 有能感        |
| まとめ<br>5分 | 5 まとめ振り返り                      | ○今後のアジアとの関係について考える。<br>○自己評価表で学習の振り返りを行う。                                                                                                           | △アジアには多くの国があり、様々な民族が暮らしている。日本もその一員として自国のことのみならず、共に歩んでいくことが大切であることに気付かせる。         |                          | 有能感        |

⑤ 評価

【関心・意欲・態度】

アジアの国々と日本の貿易関係に関心を持ち、資料からその特色を追究しようとしている。

【思考・判断・表現】

写真やグラフなどの資料から、アジアの国々と我が国の関わりを考え、追究している。

公開検証授業の様子

学習の見通し

写真

写真 12

写真

写真 13

前時で練り上げた課題を確認。  
学習目標を把握し、学習の見通しが持てた。  
さあ！授業開始！！

バタフライ・マップを作成（個で取り組む）

写真

写真 14

資料から読み取った根拠（事実）から必要なものを選択し、「解決の羽」に自分の考えや意見を記入。

写真

写真 15

評価規準を明確にし、個に応じた「手だて」を実施中。

司会の進行で話し合いが開始。「是側の意見から述べて下さい。」  
「資源の少ない日本はアジアとの繋がりが必要だ。」「おっ！良いこと言っているぞ。メモしておこう。」

意見交換の場（集団で取り組む）

写真

写真 16

写真

写真 17

写真

写真 18

自分の考えや意見を再構築（個で取り組む）

写真

写真 19

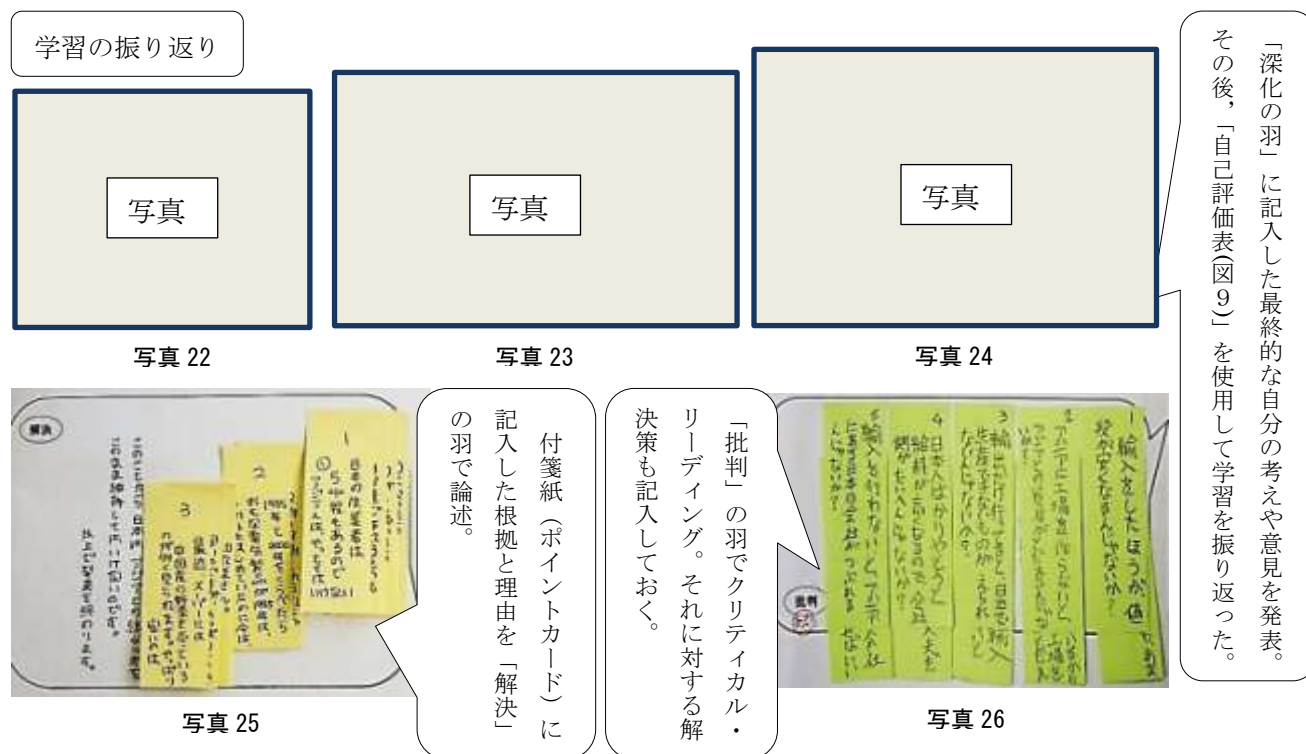
写真

写真 20

写真

写真 21

意見交換を終え、「深化の羽」に最終的な自分の考えや意見を記入。  
話し合い後、どう深まったのだろうか？



## VIII 研究の結果と考察

「地図や資料を活用する学習において、読み取る、解釈する、説明する、論述するなどの言語活動の充実を図ることで、地理学習における思考力・判断力・表現力を育成することができるであろう。」と研究仮説を設定し、本研究を進めてきた。研究内容や検証授業を終えて、生徒のワークシートや自己評価表、アンケート、事前事後の調査結果等から分析、考察する。

### 1 理論研究

#### (1) 思考力・判断力・表現力の育成

これまで、思考力・判断力・表現力の育成を図るために取り組んできた学習指導は、基礎的・基本的な知識、概念や技能を習得させる段階から工夫が足りなかった。

地理学習においては、地図や資料の活用ができなければそこにある根拠に気付くこともなく、話し合いを始めても社会的事象に関することの解釈、説明はできないと考えられる。

本研究では、思考力・判断力・表現力の育成のために地理的技能を習得させ、言語活動を充実させる工夫などの手だてを充実させた。

根拠を明確にした論述をすること、意見交換

によって自分の考えを深めることに関して、アンケートの質問に「とてもそう思う」、「そう思う」の解答が95～100%を占めた。また、授業後のテスト結果では、10%だった正答率が65%となり成果が見られる（図19、23～26）。

よって、思考力・判断力・表現力の育成のために基礎的・基本的な知識、概念や技能を習得させ、言語活動を充実させる工夫など、本研究で実施したことは効果があったと判断できる。

#### (2) 言語活動の充実

いくつかの文献同様、本研究でも「読み取る」段階から言語活動として捉えてきた（図3）。言語活動を充実させるためには段階的な指導が大切であり、ワークシートの工夫など丁寧な学習指導が必要である。

そのため、バタフライ・マップを本研究で取り入れ、根拠を明確にした自分の考えや意見を論理的に述べるように手だてを充実させた。当初、バタフライ・マップに当惑していた生徒も、付箋紙に記入されていることを「文型」に当てはめれば自由に記述するよりも根拠や理由を明確にできると気付き、記述内容が深まっていった。

また、意見交換の場でも「文型」や「話型」を参考にし、相手にわかりやすく伝えようとする目的意識が感じられ、スムーズに意見交換が行われていた。

生徒のワークシートや活動状況からだけではなく、授業後のアンケートやテストの結果からも成果が見られる（図 13～26）。

このことから、言語活動の充実を図るために段階的な指導とワークシートの工夫など、丁寧な学習指導は効果があったことが判断できる。

### (3) 思考力・判断力・表現力の評価

生徒一人一人の思考力・判断力・表現力の評価をするためには、評価規準、評価方法を明確にすることが必要である。それが明らかになると、授業中の活動やワークシートの記述内容から課題があると判断できる生徒への「手だて」を考えることができる（P114(3)参照）。

授業中に行う「手だて」では不足だと考えられる生徒には、授業終了後に補習授業を行った。最初は嫌がっていた生徒も



写真 27「手だて」実施中

いたが、生徒の実態に合わせた指導を実施することで、「わかった」「できた」という声が聞こえ有能感を生み出すことができた。

また、空欄や誤答が多かった生徒のワークシートの記述内容が充実してきたこと、学習の振り返りの自己評価が良くなってきたこと、授業後のアンケート結果からも「手だて」が効果的に行われたと思われる（図 20～24）。

このことから、PDCAサイクルを意識した評価をし生徒の実態に合わせた指導の改善を図ることは、思考力・判断力・表現力の育成に有効であると判断できる。

## 2 指導計画

本校生徒の課題が明確になり、5つの点に留意して指導計画を作成した（P112①～⑤）。本研究の指導計画を、授業後の実態調査を中心に考察していく。

### (1) 検証授業後の実態調査

#### ① 調査目的

授業後の生徒の実態調査を行い、仮説の検証資料として役立てる。

#### ② 調査方法

ア 地図や資料を活用したテスト

レディネステストと同じ問題であるが、前回実施後は問題を回収し、解答・解説も行っていないので資料として役立つと判断している。

イ 質問紙法（アンケート）

ウ 調査日：平成 23 年 12 月 15 日

エ 調査対象：沖縄市立コザ中学校 1 年 1 組

男子 20 名 女子 17 名 計 37 名

#### ③ テスト結果と比較（問題は簡略記載）。

【問 1】「41 F 6 N」という記号から、ある国の首都を見つける。

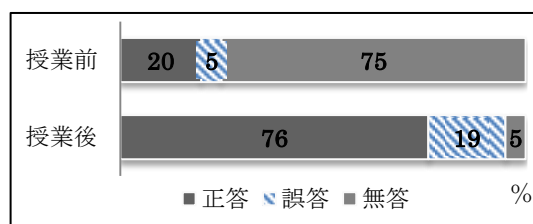


図 13 地図帳さくいの引き方

【問 2】世界一人口の多い国と人口を調べる。

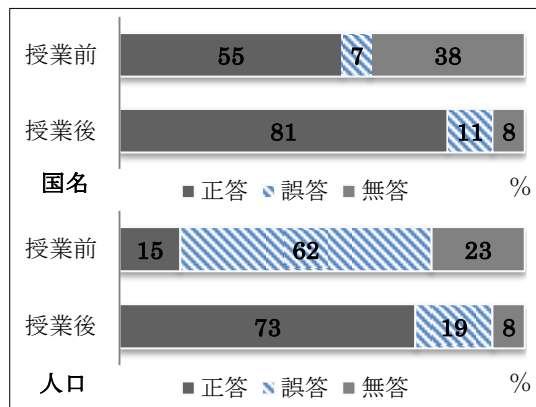


図 14 統計資料の使い方

【問 3】日本の食料自給率は何%か。

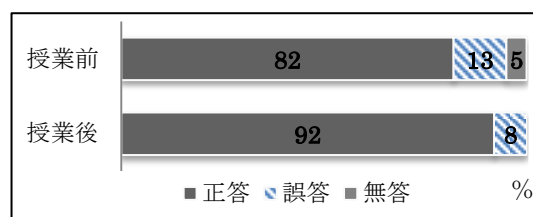


図 15 グラフの読み取り①

【問 4】食料自給率が一番高い品目は何か。

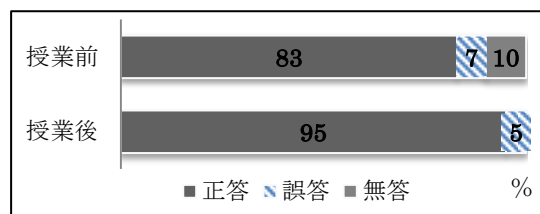


図 16 グラフの読み取り②

【問 5】日本が輸入に頼っている割合が一番高い品目は何か。

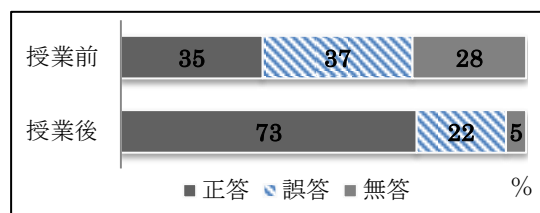


図 17 グラフの読み取り③

【問 6】問 5 の答えをどのように導き出したか。

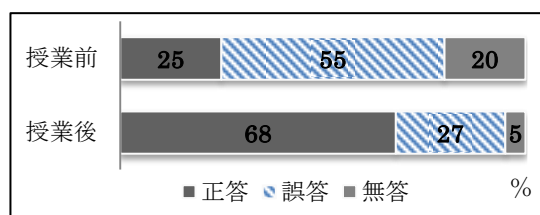


図 18 思考力・表現力を問う問題①

【問 7】日本の食料自給率が減り続けていくと、どんな問題がおこると考えられるか。

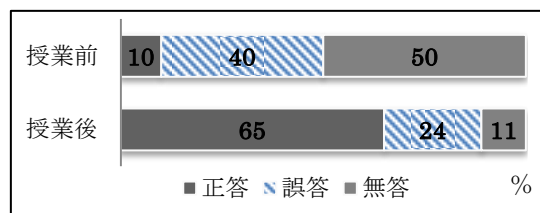


図 19 思考力・表現力を問う問題②

#### ④ 質問紙法（アンケート）結果

4：とてもそう思う 3：そう思う  
2：あまり思わない 1：思わない

【問 1】以前より，主題図（地図）を読み取ることができるようになった。

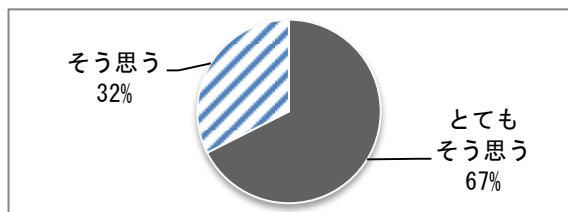


図 20 主題図（地図）の読み取りについて

【問 2】以前より，グラフなどの資料を読み取ることができるようになった。

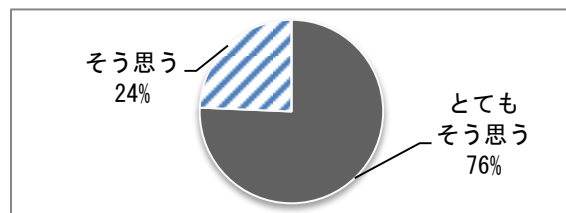


図 21 資料の読み取りについて

【問 3】以前より，地図やグラフ（資料）を見て，いろいろなことを考えるようになった。

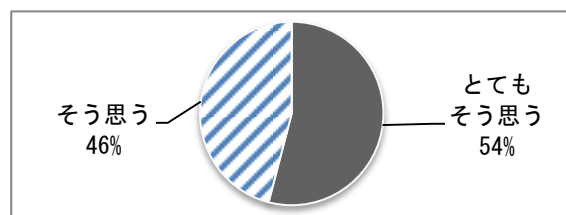


図 22 資料活用について

【問 4】以前より，自分の考えを文章で表現できるようになった。

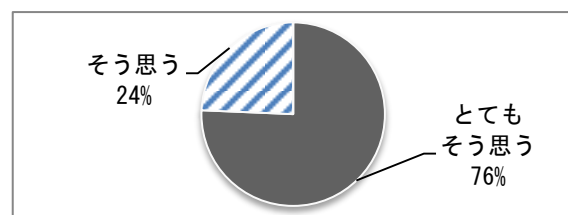


図 23 文章表現について

【問 5】以前より，自分の考えや意見を皆の前で論理的に述べるようになった。

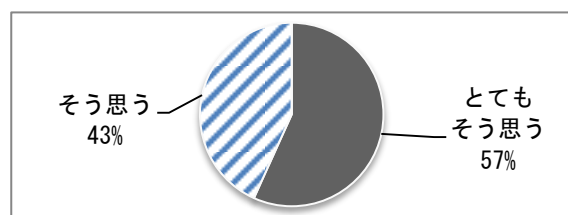


図 24 論理的に述べることについて

【問 6】以前より，質問することや返答することができるようになった。

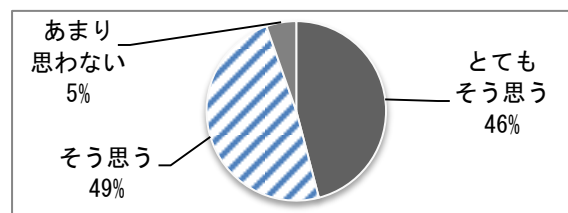


図 25 質問・返答について

【問7】以前より、他の考えや意見を聞いて、自分の考えを深めることができた。

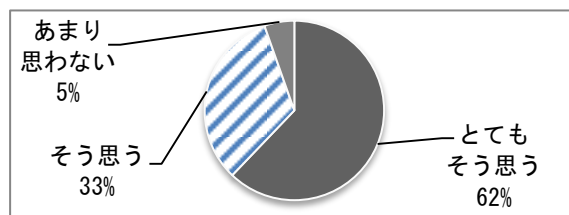


図 26 思考力・判断力の育成について

## (2) 指導計画の検証

授業後に実施したテストの結果、全問題で正答率が上がり大きな成果が見られた。また、誤答や無答の生徒が激減したことは、学習に対する意欲を高めたともいえる（図 13～19）。

テスト問 6・問 7 に関して、根拠が弱い生徒の解答は誤答に含めたが、論述しようという意欲が見られた（図 18～19）。アンケート結果からも 95～100%の生徒が「できた」、「わかった」と有能感を感じている（図 20～26）。

これらのことから、本研究の指導計画は効果があったと判断できる。

しかし、検証授業後のテストで、地図帳のさくいんの引き方、統計資料の使い方、グラフを深く読み取るなど地理学習に必要なことができていない生徒が 20～30%いる（図 13, 14, 17）。また、思考力・表現力を問う問題に関しては、35%前後の生徒が誤答、無答である（図 18, 19）。

これは、ほとんど同じ生徒が毎時間「手だて」を受けていたため、新しい知識や技能を学ぶことに懸命で、先に習得した知識や技能の定着を図ることができなかったと思われる。思考力・判断力・表現力の育成は、長期的な取り組みが必要であることが実感できた。

そこで、今後は P D C A サイクルを意識した評価をし、生徒の実態に合わせた指導の改善も図りながら、家庭学習の習慣化への取り組みも考慮に入れた指導計画を作成し実施していきたいと考える。

## 3 授業実践（検証授業の考察）

授業で取り入れた主な実践を中心に検証授業の考察とする。

### (1) 学習の見通しと振り返り

学習の見通しとして「地図や資料を活用した学習」を「情報の読み取り、疑問を持つ、予想する、調べる、考えや意見を論述するの手順で学ぶ」、その学びには「相手に分かりやすく伝える」という意味があることを示した。それを把握させ、「どうすれば、うまくいく？」と考えさせることで自主的に学ぶ態度を育むことを目指した。

毎時間、学習の見通しを実施していると、生徒が学習目標や目指す生徒像を自主的に言えるようになった。

学習の振り返りは、主に自己評価表を使用した。生徒の感想から「自分はどう成長したか」が見られる（図 27）。

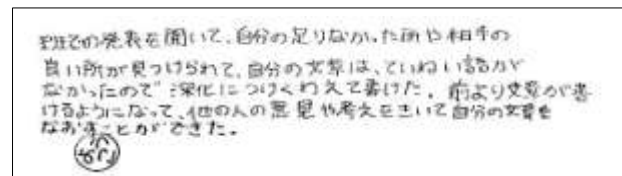


図 27 学習の振り返り（生徒の自己評価から）

授業への学習意欲が高まっていったことや自己評価表の記述内容から、学習の見通しや振り返りを行うことで、自主的に学ぶ態度を育むことができたと判断できる。

### (2) 地理的技能の育成

地理的技能を育成するために「読み取りポイント」、「作り方ポイント」を生徒自身に見つけさせた（図 12）。後に班で共有させたことで、自分では気付かなかった視点を認識することができ、多くの生徒が習得できたと考えられる。

授業後のアンケートでは、地図や資料の読み取りについて全員が「とてもそう思う」、「そう思う」と答えている（図 20～21）。また、授業後のテストでも正答率が上がっている（図 15～17）。さらに、学習活動からも自分の意見を述べる際に「根拠」となる事実をしっかりと見つけることができるようになった。

レディネステストでは無答が多く、これまでの授業に対しても無気力だった生徒 A の授業後の感想から、この授業で有能感を感じていると

思われる（図 28）。その後の授業でも、主体的に学習に取り組む態度が見られた。

図 28 学習の振り返り（生徒 A の自己評価）

このことから、地理的技能の育成のために、基礎的・基本的事項を教師と共に確認した後、各自で見つけたポイントを共有し互いに教え合うことは成果があったと判断できる。

### (3) 論理的文章を書く・話す指導

言語活動は段階的な指導を図り、難度の高い「論述」に関してはワークシートの工夫など丁寧な学習指導を実施した。

資料から読み取った情報を、解釈、説明、論述することを苦手とする生徒が多くいたが、バタフライ・マップを活用することで課題に対する論述ができるようになった。苦手なことができるようになり、生徒の有能感を高めていることが自己評価からわかる（図 29）。

図 29 学習の振り返り（生徒の自己評価）

また、本研究で使用した付箋紙は、そこに記入されていることが論理的文章を書く上で重要な要素を持っていることから、生徒が「ポイントカード」と名付けた。バタフライ・マップを使用した学習に意欲を高め、取り組んでいた。

さらに、第 4 時と公開検証授業では、バタフライ・マップの活用が進化した（写真 10, 24）。「文型」になれた生徒が、付箋紙を移動せずに論述することができるようになった。公開検証授業の意見交換を終え、深化の羽には深まった

考えや意見が書かれている（図 30）。

図 30 公開授業のバタフライ・マップ「深化の羽」

根拠を明確にした論述をすること、意見交換によって自分の考えを深めることに関して、アンケートでは「とてもそう思う」、「そう思う」が 95～100%を占めた。また、授業後のテスト結果では 10%だった正答率が 65%となり、バタフライ・マップを使用した指導の工夫は成果が見られる（図 19, 22～26）。

しかし、35%前後の生徒が「説明」及び「論述」ができていない（図 18～19）。誤答の生徒達は、根拠や理由が弱く自分の考えや意見を述べるには至っていない。

これは、基礎的・基本的な知識、概念や技能がしっかりと習得されていないこと、それを活用する力が不足していることが考えられる。

やはり、思考力・判断力・表現力の育成は、長期的な取り組みが必要である。今後も P D C A サイクルの中で、「主体的に学習に取り組む態度」と「基礎的・基本的な知識・技能」を活用した「言語活動を充実させる」ことに取り組んでいきたい。

### (4) 論理的な思考を深める指導

「個」としての取り組みを大切にすること、参考になる文例を示すこと、意見交換の場で良い表現などを付箋紙に記入することなど指導の工夫を図ってきた。

レディネステストでは無答が多く、これまでの授業に対しても無気力だった生徒 A のバタフライ・マップ「深化の羽」を見ると、意欲的に取り組んでいることがわかる（図 31）。

このことから、論理的な思考を深める指導の工夫は効果的であったと判断できる。

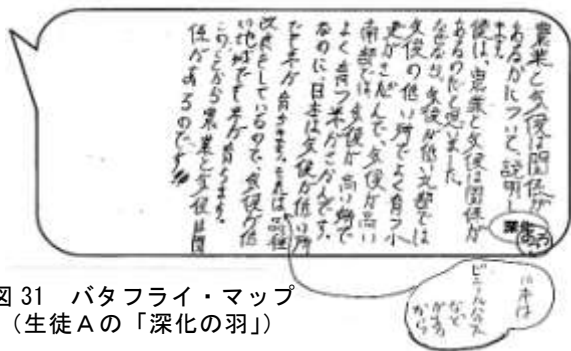


図 31 バタフライ・マップ  
(生徒 A の「深化の羽」)

## IX 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

地理学習で地図や資料を活用できる地理的技術を習得させると、主体的に学習に取り組む態度が育まれる。習得した知識、概念や技能を活用し、言語活動を充実させるために段階を踏んだ丁寧な学習指導を行うことができれば、地理学習における思考力・判断力・表現力を育成できることが明らかになった。

基礎的・基本的な知識、概念や技能を習得させると、「わかった」、「できた」という有能感、生徒の主体的に学習に取り組む態度を育むことができる。そのためには、単元の指導計画や評価規準を明確にし、課題のある生徒に対して「手だて」を図ることが大切である。

言語活動の充実を図るために、「読み取る」、「解釈する」、「説明する」、「論述する」の各段階の取り組みを工夫しながら丁寧に指導を行うこと。「バタフライ・マップ」を使用するなど、ワークシートの工夫を図り、生徒自身に思考の過程を意識させながら論述させること。言語環境を整えるために、一年生の段階では「型」を

提示すること。「個」と「集団」の場を大切にする。これらの取り組みは、地理学習における思考力・判断力・表現力を育成するうえで効果があったと考える。

最後に、小学校から社会科が苦手な生徒の感想を載せて、研究の成果とする（図 32）。

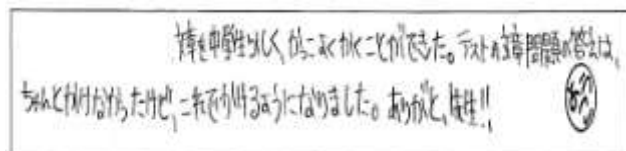


図 32 授業終了後の生徒の感想

### 2 今後の課題

検証授業後のアンケートから、ほとんどの生徒が「できるようになった」と手ごたえを感じているが、授業後のテストから課題が明らかになった。

地図帳のさくいんの引き方、統計資料の使い方など地理的技能の定着の面で、20～30%の生徒が不安定である。また、思考力・表現力を問う問題に関しては35%前後の生徒が誤答、無答である。

そこで、今後は「手だて」とともに、家庭学習の習慣化への取り組みも考慮に入れた指導計画の作成と実施が必要である。

また、思考力・判断力・表現力の育成は長期的な取り組みが必要なので、地図や資料を活用した言語活動の充実を図る取り組みについて、反復的・継続的な指導が必要である。

## <主な参考文献・引用文献>

- ・ 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 2011  
『思考力・判断力・表現力等を育成する指導と評価』 学事出版
- ・ 文部科学省 2010 『児童生徒の学習評価の在り方について（報告）』  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/attach/1292216.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/attach/1292216.htm)
- ・ 岩田一彦・米田豊 2009 『言語力をつける社会科授業モデル（中学校編）』 明治図書
- ・ 堀内一夫・大杉昭英・伊藤純郎 2009 『中学校教育課程講座社会』 ぎょうせい
- ・ 藤森裕治 2007 『バタフライ・マップ法～文学で育てる<美>の論理力』 東洋館出版社